

なにげない日常に、 必要とされる仕事。

あの子が手を振ってくれる。
私は「ポポッ」と汽笛で答える。
君が着てるTシャツ。
弟のオムツ。
おうちで使ってるイス。
ジュースや歯ブラシだって、
おじさんたちが運んでるんだよ。
汽笛には、こんなメッセージを
ひそかに込める。
ふだん「ありがと」を
言われることはない。
だから消費者と直接つながる仕事は、
正直うらやましかった。
でもいまは、
物流という世界に胸を張れる。
子どもに手を振ってもらえる仕事なんて、
そうはない。
貨物列車の仕事の99%は、
そのまちに物を運ぶこと。
残り1%は、そのまちの子どもを
ワクワクさせることだ。

日本を運ぶ、
日本をつなぐ。